



## 課題を抱えるコミュニティ活動への適切な市の支援策

日立市のコミュニティ活動は昭和50年「日立市民運動推進連絡協議会」としてスタート、概ね小学校区を単位に、市政への協力、学区内の課題解決、住民の連帯意識の醸成など、行政と連携・協働して35年間続いています。

しかし、単会では町内会等の加入率の低下、高齢化による課題などが浮上しており、行政としての支援策などを調査・研究する「行政とコミュニティ活動のあり方検討委員会」において、検討が進められています。

### 変化した地域社会でのまちづくり

この検討委員会は平成21年12月21日に第1回が開催され、一般公募委員を含め10名の委員で構成、コミュニティ推進協議会から柴田会長、志賀副会長、西村副会長が委員として参画、委員長の大杉覚先生(首都大学東京大学院教授)を中心に検討が進められています。

日立市では昭和50年から各学区の特性に合った自主的なまちづくりが始まりました。発足時はふれあい

町内会等の脱会・解散、未組織地区の増大など、コミュニティ単会のみでは解決できない課題を抱えることになりました。

### 行政にとってコミュニティとは

日立市の行政運営にとって、大事な組織であるコミュニティの活動の停滞につながるような現状を食い止め、活動の維持や推進を図るために、行政としての適切な支援策や促進策の調査・研究を行い、平成23年3月に市長に対して、提言することになっています。



適切な支援策を検討中

を深める運動や、花いっぱい、河川清掃などの環境をきれいにする運動など積極的に進めてきました。

近年、単会における活動は、防犯や防災、地域福祉、環境、青少年育成などの課題解決に加え、市政全般にわたる施策への連携・協働の必要性が高くなってきました。

一方で、地域社会における高齢化や住民の連帯意識の希薄さなどから、

### ホームページ更新の支援をします

百年塾情報部会では、今年度も出前でホームページ更新や新しい画面づくりの手法を学びたいという、コミュニティ推進会の要望に応えます。

お申込みは百年塾サロン (☎23-9165)

今までに、8回の委員会が開催され、現状の把握や各コミュニティ単会代表との意見交換等を通して、①コミュニティに依頼する業務等における課題、②行政とコミュニティとの協働について、③住民参画型コミュニティビジョンの明確化、④持続可能なコミュニティ自治の構築などについて議論し、少しずつ整理をする段階までできました。

今後、①コミュニティを市政に適切に位置づける、②コミュニティ自身が自治を確立し、協働を推進する、③コミュニティをめぐる諸問題に対する具体的な方策などについて検討しながら方向性を見出していく予定です。

この検討委員会は一般公開されており傍聴が可能ですので、是非足を運んでください。また、日立市のホームページでは会議録要旨や会議資料などを見ることができます。

### みなさんの学区のコミュニティ活動へ参加を!

平成22年度に宮田、油縄子の2単会の会長交代がありました。コミュニティ活動拠点、事務局は各交流センターです。学区・地区の活動へご参加ください。

地区・学区	会長	交流センターTEL
十王	沼田 明博	39-2411
豊浦	山田 孝志	43-5755
日高	志賀 勝弘	42-4050
田尻	鈴木 利治	42-1552
滑川	遠藤 進	22-1654
宮田	田尻 久	27-6835
中里	石川 諒一	70-8005
仲町	古河 利孝	21-5564
中小路	矢部 敏晴	22-6483
助川	永井 久善	23-0955
会瀬	柴田 和彦	25-1577
成沢	黒澤 宣明	35-5587
油縄子	益子 功喜	38-7531
諏訪	澤田 貞英	33-3841
大久保	蛭田 保夫	34-0535
河原子	八幡 一	33-3746
塙山	西村ミチ江	34-5404
大沼	大江日出雄	35-8329
金沢	鴨志田勝雄	36-3985
水木	高橋 幸隆	52-3225
大みか	川村 広	53-5211
久慈	須田 昭	52-0165
坂下	赤津 憲一	52-3155

## 日立市総合計画策定のためのコミュニティ単会でグループインタビュー

日立市は日立市総合計画を平成24年3月末までに策定します。そのため各コミュニティ単会のグループインタビューが、政策審議室企画調整課により6月21日から7月7日に実施され多くの意見や要望が出されました。

### 策定のための初の試み

計画の策定に向け各分野に携わる人たちの意見を参考にするため、今回初めての試みとして、市内各地域の現状や課題、地域の魅力、市の将来像などに対する意向を調査、把握するインタビューが実施されました。今後、第2弾として各支所単位にタウンミーティングが予定されています。

これらの結果を集約し市報やインターネットで公表することになっています。また、学識経験者、各種団体、企業代表、公募による市民により構成された総合計画策定委員会で審議、検討されることになっています。

#### ■インタビュー結果の概要の抜粋

##### <日立の魅力と活用について>

①海や山などの自然環境が豊かで災害が少ない。②ものづくり産業などの要素が十分に活用されていない。観光分野の取り組みや市外や県外へのPRの充実が必要。

##### <日立市の課題と必要な施策>

###### ①高齢者の状況と対応

- 若年層が定住せず、各地域で高齢者のみ世帯の増加、老老介護の増加、日常生活での移動手段に危機感がある。
- 高齢者へは各コミュニティが対応しており、高齢者を支える上でコミュニ

ティ組織が大きな力となっている。

###### ②若年層の状況と対応

- 定住しない、戻らない理由に市内に就業機会がない、都市としての魅力がない、宅地の供給がない。

###### ③人口移動の実態

- 人口流出として、仕事を求め若年層が市外に流出する。子供世帯の市外居住に伴い親世帯が子供と同居のため転居する例も見られる。



###### ④団地の状況について

- 団地造成でほぼ同じ年齢層が入居、団地単位で急激な高齢化や少子化が問題になっている。

###### ⑤産業施策

- 大企業と共に発展してきた都市であり、業種の偏り受注先の多角化など経営の在り方等の面で課題がある
- 大企業の下で育った市内の中小企業は、今後も重要な雇用の場所であり、企業に対する支援が必要。
- 企業をリタイアした技術者等が市内

に多く居住、その人材を活用していくことも必要である。

###### ⑥コミュニティ活動

- コミュニティ組織の活動は盛んであるが、一方では組織の世代交代や若年層がコミュニティ組織(自治会)に入らない、高齢者のひとり暮らし世帯では役割が担えず退会を申し出る等の問題も指摘された。

- 高齢者の買い物や移動支援、小・中学校との連携等、今後コミュニティの役割は一層重要になると思われる。

##### <個別施策>

###### ①商業振興(中心市街地)

- 日立・多賀駅前商店街の空洞化や従来地域の生活必需品を賄っていた個人商店が減少し高齢者の利便性が低下。中心市街地再生の意見と市内への大規模商業施設を望む意見もあった。

###### ②コミュニティバス

- 多くの地区で現在まだ問題として顕在化していないが、将来は移動手段の確保が課題になると認識している。

###### ③観光振興

- 山や海などの自然環境、かみね公園、奥日立さららの里、産業遺産や施設等の地域資源を活用し観光振興に積極的に取り組む必要がある。

###### ④世代間とコミュニティの連携

- 若年層の定住を促進し、若者世代とコミュニティ連携を強化する必要性。

###### ⑤団地への若年層の居住促進

- 市内就業機会の確保のほか、若年層へ安価な住宅の供給、団地内の空き家・空き地への居住を促進する施策。

### コミュニティ活動

#### ひたち市民カレッジで講演

仲間と楽しく学びながら生きがい探しと地域に役立つ活動を目指す、ひたち生き生き百年塾推進本部主催、茨城キリスト教大学の共催の「ひたち市民カレッジ」が開講しました。

7月7日に日立市コミュニティ推進協議会の柴田和彦会長は、市民と行政の協働のまちづくりの活動のあゆみと、活動の基本方針や拠点施設

の一元化について講演しました。

事例紹介では、日高学区市民自治会の志賀勝弘会長が「住民総参加型のイベントづくりとコミュニティ活動」の実践活動を紹介しました。

受講生から「通学路の草が伸びて困っている時はどこに相談すればいいのか」との質問に「コミュニティに相談すれば対応します」と答えて、コミュニティは地域の窓口と説明しました。

### 【担当課からひとこと】

総合計画の策定にあたりましては、広く市民の皆さまの声をお聴きし、市の目指すべき方向性を明らかにしていきたいと考えております。今回実施いたしましたインタビューのほか、地区懇談会や市民提言の募集なども実施しておりますので、本市をより良いまちにするため、今後ともご協力をお願いします。 企画調整課

## 地域わんぱく隊事業 多彩な子どもの体験プログラム

日立市では地域の教育力の向上を図るため、地域の子どもの「生きる力」を育む、宿泊体験活動事業を実施するコミュニティ単会などに補助を行っています。

16学区のコミュニティ単会では、青少年育成部や実行委員会が各種団体と協力して「地域の子どもは地域で育てる」を合言葉に、地域の特性を活かした多様な活動で夏休みを中心に実施しています。

取り組み方は様々ですが、諏訪学区では青少年育成部主催で行っていましたが、スタッフ不足などから「子どもは地域の宝だ、みんなで育てて行こう」と、コミュニティの事業として実行委員会を立ち上げ、地域親として力を結集し実施しています。

会瀬学区では青少年育成部主催と子ども会育成連合会の共催で「おお

せ元気っ子体験村」を7月18日・19日、8月25日の1泊3日で開催しました。「あらゆる環境を体験で学ぼう！」と栄養士によるエコッキング、県環境アドバイザーによる海辺の観察、科学館の出前講座で星座教室、海の日地域海岸清掃に参加、会瀬漁港の水揚げ見学と漁船体験、魚のさばき方見学と盛りだくさん。子どもたちはドラム缶風呂と、はじめて行った滑川の温泉スタンドから運んだお湯のトラック風呂の元気っ子温泉で大はしゃぎでした。



ドラム缶風呂

## 実践から学ぶ安全や安心

平成22年度コミュニティ防災担当者会議が7月30日（金）に開催され、各単会から会長や防災・防犯担当者など2名が出席しました。

会議では①防災体制整備（戸別受信機整備、防災ハザードマップ作成、避難誘導標識整備）、②自主防災組織育成事業（トランシーバー保守点検、自主防災訓練指針）、③津波一時避難場所の確認、④土砂災害警戒避難体制整備、⑤チリ地震に伴う津波警報発表に係る対応の検証など生活安全課が報告、住民の安全確保のため協働で取り組む事業が数多くあります。

今年2月27日のチリ地震に伴う津波警報発表により、日立市でも海岸線を持つコミュニティ単会で避難対応が行われました。その検証結果では、市、学校、コミュニティなどの役割の不明確。住民の避難状況の確認方法。情報共有の徹底。避難場所の選定。避難場所の運営と施設環境の整備。食料供給の体制。など多くの改善点が報告され、今後の対策や方向性なども示されました。

## 市内に広がる緑のカーテン

今夏は7月から猛暑が続いていますが、あちらこちらで緑のカーテンが目に入りました。緑のカーテンは



滑川交流センターの緑のカーテン

天然のクーラーとも言われ、部屋を涼しくするためにツル性植物で作る自然のカーテンのことです。最近では、地球にも人にも優しく、涼しく過ごすことができ、花や実を楽しむこともできることから、多くの家庭や公共の施設などで作られるようになってきました。

地球温暖化が叫ばれている昨今、温暖化防止のための小さな活動です

が、緑のカーテンづくりが、各交流センターやコミュニティで進められており、日立市の町中に広がりつつあります。

既に滑川学区のコミュニティでは5年前から、緑のカーテン作りに取り組んでいます。きっかけは建屋周囲を緑で美しくすると同時に建屋に日陰を作ろうとなったものです。緑のカーテンの種類は西洋アサガオで管理は事務員などで行っています。作っている人も楽しみであり、交流センター利用者にも喜ばれています。

## 菜の花エコネットワーク事業 坂下地区が循環型社会に一役

平成21年度にスタートした坂下地区の菜の花エコネットワーク事業、雑草に覆われていた久慈川河川敷を整地、種蒔き、除草、保全作業などを経て、平成22年7月に収穫作業が実施されました。

この事業は久慈川河川敷の1.1haに、約400kgの種を蒔き、菜の花

による久慈川周辺の美的景観向上と不法投棄防止および防犯防災を主眼とし、併せて市モデル事業として菜の花による循環型社会形成モデル事業の一翼を担っています。

この事業の今年の菜種油の収量は約120～130ℓが見込まれています。搾取された菜種油は食品衛生法に基づき安全・安心を確認後、食用油に精製して学校での調理等の利用のほか、個人向け販売も検討をします。利用後の廃油については現在実施中の廃油回収事業と同様に、バイオディーゼル燃料に生まれ変わり利用され、まさに循環型社会を形成する事業です。

平成22年度は更に耕地面積を拡大して既に整地が終了している1.7haを加えて、計2.8haまで進める計画をしています。



## 単会リレー訪問

日立市には概ね小学校区をエリアに活動している23のコミュニティ単会があります。それぞれの単会では地域福祉、防災・防災、青少年育成、子育て支援、環境、生涯学習な

どをテーマに、多くの住民と一緒に地域の特色を活かしたまちづくりを続けています。今回は滑川学区コミュニティ推進会と大久保学区コミュニティ推進会を紹介します。

## 特色ある活動を紹介（Ⅶ）

### まちづくりを盛り上げる女性部 滑川学区コミュニティ推進会

滑川交流センターを訪ね、コミュニティ推進会の遠藤進会長、上村有司副会長、遠藤一男交流センター事務長の3名から話を聞きました。

滑川学区は約4,200世帯、人口11,200人のコミュニティで、98自治会があり、自主防災は8地区で構成しています。災害時の第2次避難場所である滑川交流センター

行っており、第1次避難場所までの避難訓練を中心に実施、そこでは給水と血圧測定などを行っています。おもちゃライブラリーも女性部、農協女性部、町内会グループなど多くの人が関わり運営しています。「ボランティア人口は多いが男性のボランティアが少ないのが悩み」と上村さんはいます。

また、滑川学区といえば『螢』といわれるほど、「ホタル少年団」の活動は盛んになり、研修会や観賞会など毎年新たな試みをしながら、螢をとおして交流を深めています。

遠藤会長は「これからの活動は福祉と環境だと思うが、徐々に子どもの育成活動に移行することになるだろう」と話しています。



多くの人が関わって運営

までは30分もかかるという学区で、広範囲をエリアにしたコミュニティといえます。

組織の中に目新しい名称の「女性部」があります。平均年齢が60歳以下というこの部は、市民講座や講演会、料理教室などを開催するほか、年間数10回の福祉施設への訪問を行って実績をあげています。そのほか、推進会の各部の応援をするという大きな役割があり、コミュニティ活動を盛り上げています。

地域福祉を担うのは滑川地区社会福祉協議会で、コミュニティ推進会と一緒に自主防災訓練でひとり暮らし高齢者の避難誘導を3年前から

### 輪(和)を大切にした まちづくり

大久保学区コミュニティ推進会 多賀市民プラザ内にある大久保交流センターを訪ね、会長の蛭田保夫さんにコミュニティ推進会の活動について話を聞きました。

この建物は、多賀支所、多賀市民会館と3つの施設があるので、朝から夜まで多くの人の流れがあり活気を呈しています。

大久保学区は「ふれあい、語り、たすけあい」をモットーに、地域の人たちが自分らしく、夢と希望を持って暮らせるようにと、いろいろなまちづくり施策を積極的に推進しています。

学区内での住民参加による諸行事の中でも、特に人気のあるのが大久保小学校を会場に開催される「大久保ふれあいまつり」です。このまつりを通して多くの人がお互いに力を合わせ、仲間意識を高めながら様々な検討を重ねながら、目標に向かって努力しています。

参加チームは、市の出先機関である多賀支所に呼びかけるほか、消防

署、勤労青少年ホーム、視聴覚センター、保育園、児童館、老人の家から大久保小学校、大久保中学校、PTA、子ども会、おやじの会、各スポーツ団体、自主グループ等々、多



お楽しみの大抽選会

岐にわたりユニークです。

地域の諸団体、各グループ等、住民総参加で展開されるこのイベントについては、その全ての活動の中で、青少年の育成、安心安全と福祉、環境の美化など、少しでも豊かな心が醸成できればと願っています。

小学生の開会宣言に始まり、最後はお待ちかねの大抽選会で一日が終わります。蛭田会長は、これからもこの「まつり」の輪を広げると共に、若い世代へとつなぎ、組織の強化に努めていきたいと話していました。